

尚、(解4-2)における各パラメータは、次の方法で計算するものとする。

- ・LPガスの物性値 (L , C_p , ρ_p , ρ_v など) は、消費終了時の液温と外気温の平均温度における値とする。
- ・伝熱面積 (A) 及び液深さ (z) は、消費終了時の値とする。
- ・総括伝熱係数 (U) は、消費終了時の温度差をベースに計算する。

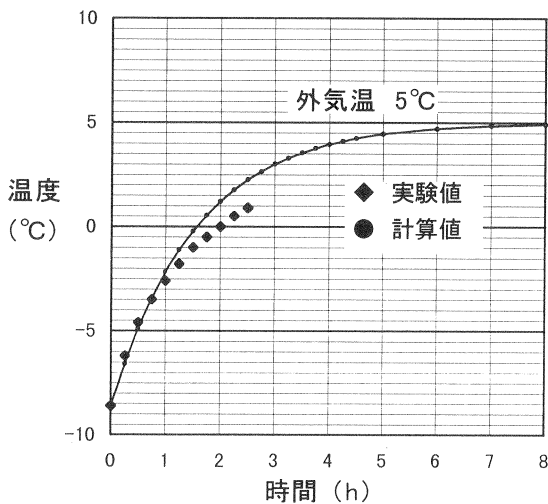
3. 自然気化消費における液温回復推算式の評価～KHK実験データとの比較

解・表4.1のKHK実験データと(解4-1)式による液温回復推算値の比較結果を解・表4.2及び解・図4.1, 解・図4.2に示す。

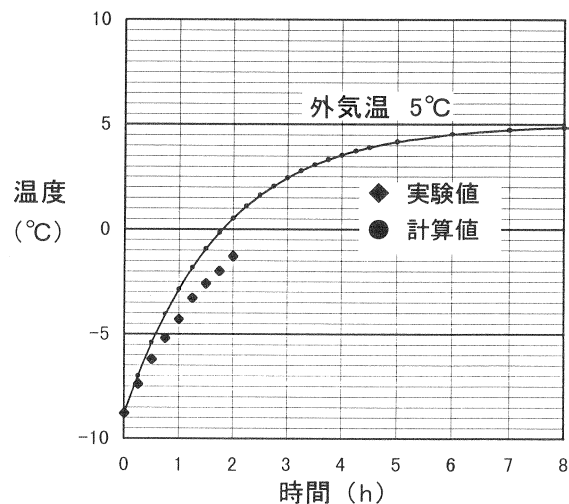
経過時間が長くなると計算結果と実験結果の差が大きくなるが、これは液温回復末期における総括伝熱係数が計算で想定した値よりも実際には小さいためと考えられる。

解・表4.2 液温回復に関する実験データと推算結果

時間 (h)	Run1			Run2		
	実験	計算	差	実験	計算	差
0.00	-8.6	-8.6	0.0	-8.8	-8.8	0.0
0.25	-6.2	-6.6	0.4	-7.4	-7.0	-0.4
0.50	-4.6	-4.9	0.3	-6.2	-5.4	-0.8
0.75	-3.5	-3.4	-0.1	-5.2	-4.1	-1.1
1.00	-2.6	-2.2	-0.4	-4.3	-2.9	-1.4
1.25	-1.8	-1.1	-0.7	-3.3	-1.8	-1.5
1.50	-1.0	-0.2	-0.8	-2.6	-1.0	-1.6
1.75	-0.5	0.5	-1.0	-2.0	-0.2	-1.8
2.00	0.0	1.2	-1.2	-1.3	0.5	-1.8
2.25	0.5	1.8	-1.3		1.1	
2.50	0.9	2.2	-1.3		1.6	
2.75		2.6			2.0	
3.00		3.0			2.4	
3.25		3.3			2.8	
3.50		3.5			3.1	
3.75		3.8			3.3	
4.00		3.9			3.5	
4.25		4.1			3.7	
4.50		4.2			3.9	
5.00		4.4			4.2	
6.00		4.7			4.5	
7.00		4.8			4.7	
8.00		4.9			4.8	



解・図4.1 液温回復 (Run1)



解・図4.2 液温回復 (Run2)